

問題 8. 非浸潤性乳管癌

症例：80歳代、女性。右乳腺腫瘍。

検体（採取法）：右乳腺（穿刺吸引細胞診）

染色：パパニコロウ染色

問題：正しいものに○、間違っているものに×を下さい。（VS：バーチャルスライド）

1. VSでは、壊死性背景がみられる。 ×
2. VSでは、ヘモジデリン貪食マクロファージがみられる。 ○
3. VSでは、単調な細胞の集塊がみられる。 ○
4. 針生検による組織診断が推奨される。 ○

解説

背景にはヘモジデリンを貪食した泡沫細胞の集簇が散在性にみられる（図1）。このことから出血性の嚢胞性病変の存在が推測される。上皮細胞集塊は結合性良好でシート状の大型集塊として見られる。集塊の形は不整で篩状構造や一部に乳頭状構造も見られる。核は類円形を示しクロマチン細顆粒状で増量し小型核小体を認める。強拡大では核の軽度大小不同と一部に不規則重積性も見られる（図2）。核異型は弱いものの単調な細胞集塊で、筋上皮との二相性は明らかではなく、DCISを考える。推奨される判定区分は悪性の疑い or 悪性とする。

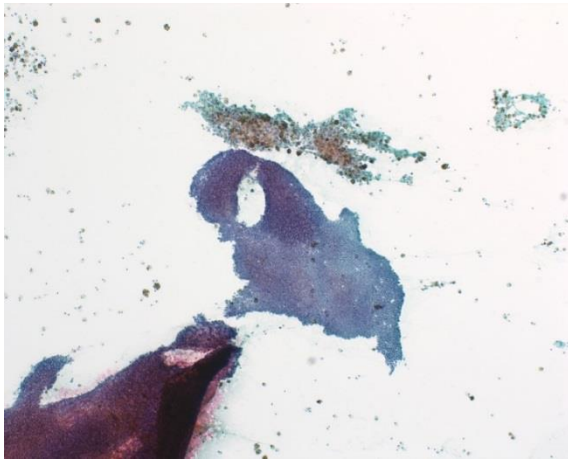


図 1

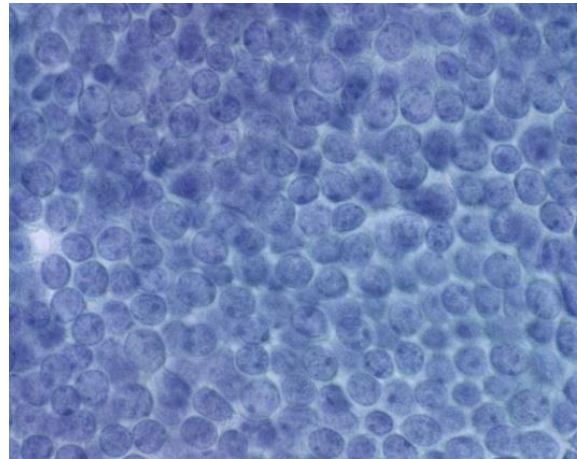


図 2

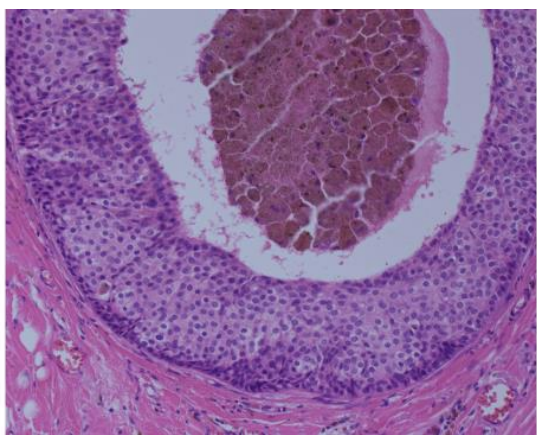


図 3

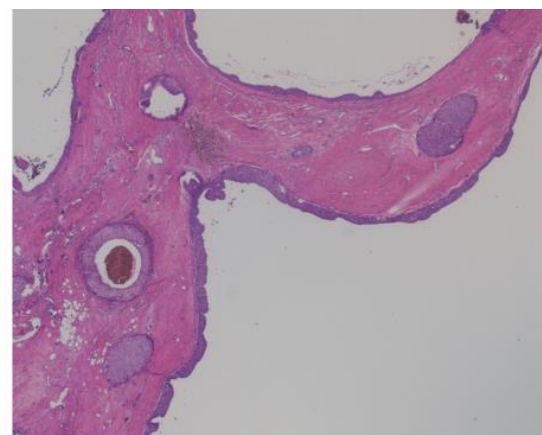


図 4

組織診断：非浸潤部の嚢胞状拡張をともなう浸潤性乳管癌であった（図3，4）。細胞は嚢胞状拡張をともなう乳管内成分から採取されてきたと推察された。